

平成29年度第2回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（東牟婁会場）

- 1 日時：会場 平成29年7月18日（火） 9:30～12:30 和歌山県水産試験場
- 2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計 58名
- 3 内 容

◆講演「コミュニティ・スクールの推進に向けて
～小中連携した取組と高等学校でのコミュニティ・スクール～」
文部科学省 CSマイスター
山形県 大石田町教育委員会教育長 布川 元 氏

○山形県大石田町のCS導入の目的

- ・「地域の期待」に応えられる教育ビジョンを話し合う場の設定の必要性

↓

【構想】

- ・地域が子育ての当事者意識をもつ
- ・学校・家庭・地域が共に手を携えて質の高い教育をめざす

↓

小中一貫教育→学力の定着、学ぶ必要性の育成

↓

「地域共生」「地域貢献」できる子供・町民の育成



○学校運営協議会の委員について

各校の学校運営協議会委員は10人

校長の異動に応じて、交代してもらえる仕組みを作っておくことも必要
（大石田町では、「任期2年、再任は2期まで」という縛りを設けている。）

○学校運営協議会は、テーマに基づいて意見を述べる場

熟議テーマを各学校の課題に沿って設定

（例）「自分の子供を入学させたい学校とは？」

「学力向上に向けた支援の在り方とは？」

「教員の負担軽減のために、学校は何をしてほしいのか？保護者と地域は何ができるのか？」 等

○小・中・高におけるコミュニティ・スクール

- ・小学校では「地域から学ぶ」
- ・中学校では地域貢献をとおして「次世代を担う自負を養う」
- ・高等学校では地域の課題解決への参画により「地域の市民権を得る」

◆事例発表

「紀の川市における学校運営協議会

～きのくに共育コミュニティからきのくにコミュニティスクールへ～

紀の川市教育委員会 教育審議監 寺本 達也 氏

○紀の川市のきのくに共育コミュニティの取組

(例) 登下校の安全指導

授業補助、学校行事補助

郷土学習



○学校運営協議会の内容

- ・学校行事説明
- ・スクールプランを活用した学校運営方針の説明 等

○コミスク通信等による保護者、地域への周知

◆ワールドカフェ「子供たちに不足している力とつけたい力」

○子供たちに不足している力

- ・挨拶ができない。
- ・自己肯定感が低い。

○子供たちにつけたい力

- ・地域との関わりを増やしたり、一緒に活動する場を作ったりすることで、子供たちのコミュニケーション能力の向上につなげていく。



4 参加者の声（アンケートより）

- ・紀の川市の事例発表では、実際に共育コミュニティからコミュニティ・スクールへの移行の仕方がわかり、参考となった。
- ・校長・教頭の意識、情熱が大切であり、教員の共通理解を図り、「活かそう」「生かそう」という気持ちでスタートさせる。そして、ゴールに地域の学校として地域の人に認められ、応援され、誇りを感じ、自慢していただける学校に、そして子供たちが認められ、応援され、自己肯定感が高まり、自己の道を切り拓く人に成長するであろうということを心にもって動くことだと思った。
- ・ワールドカフェは初めてだったが、コミュニティ・スクールの学校運営協議会を経験しているようで大変参考になり良かった。